

ディレクトフォースを終えて

ディレクトフォースでは、ディレクトフォースのみなさん、笹川平和財団のみなさん、日本財団のみなさんから経験に基づいた非常に参考になるありがたいお話しをしていただきました。

一人目の田代純一様は、ご自身が所属している日本財団の活動内容や、特徴について細かく説明していただきました。日本財団は、行政がなかなか手をつけることのできない問題に出来る限り早い段階で対応する機関で、国の機関ではないため、かなり広い範囲への支援等を集中的におこなえる機関であるということを最初に教えていただきました。例えば最近では、熊本地震への支援をしていたようで、具体的には、現在まったくお金がなく、少しでもいいからすぐにお金が欲しい、指定避難場ではないところに避難していて食べ物や日用品が不足して困っている、といった国の機関では対応することが難しく、時間がかかってしまうような声に答えていたそうです。このお話しから、他の機関ではできない活動を行っており、なくてはならない機関だということが、よく分かりました。そして、何より弱い立場の人の気持ちによりそい、よりよい生活ができるように支援し、誰もが過ごしやすいと感じることのできるような環境をつくりあげるための手助けをしている、とても重要な機関でもあるということを知ることができました。

二人目の安達公一様は、ご自身の経験から、とてもためになるお話しをしていただきました。最初に、経営において大切なことについて教えていただきました。まずなにより、人材の育成が一番大切なことだとおっしゃいました。良い人材の育成のためには、組織としての大枠は決めるが、細かい部分については、本人にまかせ、自分で考える経験をさせることが重要だそうです。そのため、可能性を感じた人材には、ある程度難しい問題にたいしても、本人にまかせ、大切な決断をさせるそうです。また、若い頃の失敗は誰でもすることだからあまり気にしすぎる必要はなく、失敗を恐れずに何事にも一生懸命に取り組んで欲しいともおっしゃいました。安達様自身も、失敗はたくさんしたそうですが、その失敗からも多くのことを学ぶことができたそうです。さらに、ご自身のブラジルでの経験から、人と関わる時に大切なことも教えていただきました。それは、固定観念にとらわれず、一度は相手を受け入れることだそうです。これは、相手を受け入れることで、相手も自分のことを受け入れてくれ、より良いコミュニケーションがとれるからだそうです。これからはグローバル化が進み、宗教や言語、価値観のちがう外国人と関わることも多くなると思うので、言葉を話せるようになることも大切だとは思いますが、安達様がおっしゃるように、相手を受け入れて交流を深めていければと思います。そして、今私たちがすべきことはなにかと尋ねると、自分が将来なりたいものを決めればおのずとなにをすればいいのかは決まってくるから心配する必要はない。まずは自分が将来なりたいものを決めなさいとアドバイスをしてくださいました。

三人目の前川美湖様は、理想の人材についてお話しをしていただきました。前川様が理想とする人材は、みずから学び、みずから考える人材だそうです。与えられたことをただたんたんとこなしているだけでは、本当に優秀だとは言えず、今自分に求められていることは何なのか、自分が何をすれば状況をよりよくできるのか、ということ自分で考えることができる能力が本当に現在必要とされている能力だとおっしゃいました。また、何事にもめげないタフさや、好奇心、語学力がこれからグローバル化が進んでいく社会で活躍するためには必要不可欠なことであり、実際に前川様自身もこれらの気持ちをも

っており、そういった気持ちが大切だとおっしゃいました。

四人目の青木先生は、これから社会で生きていくうえで大切なことについて教えていただきました。まず、私たちが社会にでるときには、グローバル化、テクノロジーの変化、少子高齢化が大きくかかわってくるとおっしゃいました。そのため、私たちがその社会で活動をするのだから、これらのことについて詳しく知り、自分がどのようにして立ち向かっていくのかをよく考えなければいけないと思いました。そして、夢中になることを見つけ、一生懸命に取り組むこと、五感に訴える経験をする、知識だけではなく、理由を探求することが大切だと教えていただきました。夢中になることを見つけ、一生懸命に取り組むことは、自分のことを知るため、五感に訴える経験することは、現実を直視し、何事からも逃げない精神を養うため、理由を探求することは、しっかりと自分自身の意思・意見をもち、人に流されないために大切なことなのだそうです。また、本当に怖いのは失敗をすることではなく、なにもなくなることであるから、失敗を恐れてなにもしないのではなく、失敗しても次に繋げていけるように、失敗の原因や解決策を考えることを大切にすること、またリカバリーができるうちに、失敗する経験をするのが大切だとおっしゃいました。そのような失敗をしたときには、指示を出されたから、などと人のせいにするのではなく、自分で責任をとることも大切だとおっしゃいました。たとえば他人にすすめられたことであっても、最終的な決断をしたのは自分自身であるのだから、自分が責任をとることは当然のことであるし、信頼を得ることに繋がるものだと教えていただきました。そして、そういった経験をする中で、解決が難しい大きな問題に直面したときに焦ることなく、冷静な対処をすることができるようになるそうです。

僕は、実際に今回のディレクトフォースに参加し、お話を聞く前は、正直ディレクトフォースがどのようなものかがまったくわからず不安だったため、あまり参加に意欲的ではありませんでした。しかし、実際にさまざまな分野のみなさんとお話しをしていくうちに、とてもためになるお話しばかりで気づいたら夢中になって聞いていました。また、僕はそもそもこの企画への参加も親にすすめられてのものであったので、あまりこの企画への意欲がなかったのですが、このような素晴らしい経験ができ、このディレクトフォースを企画してくださった先生、私たちに実際にお話しをしてくださったディレクトフォースのみなさん、笹川平和財団のみなさん、日本財団のみなさん、この企画への参加をすすめてくれた両親にはとても感謝しています。

ただ、この貴重な経験を本当に意味のあるものにするためには、これからの学校生活への取り組みかたや、自分の意識を変えることが必要不可欠なことだと思います。このディレクトフォースで学んださまざまな考え方や精神をしっかりと心にとどめ、今から実践できるであろうことについては、すぐにでも意欲的に取り組んでいき、自分を成長させられるようにがんばりたいと思います。